

(1) 男女の地位の平等感

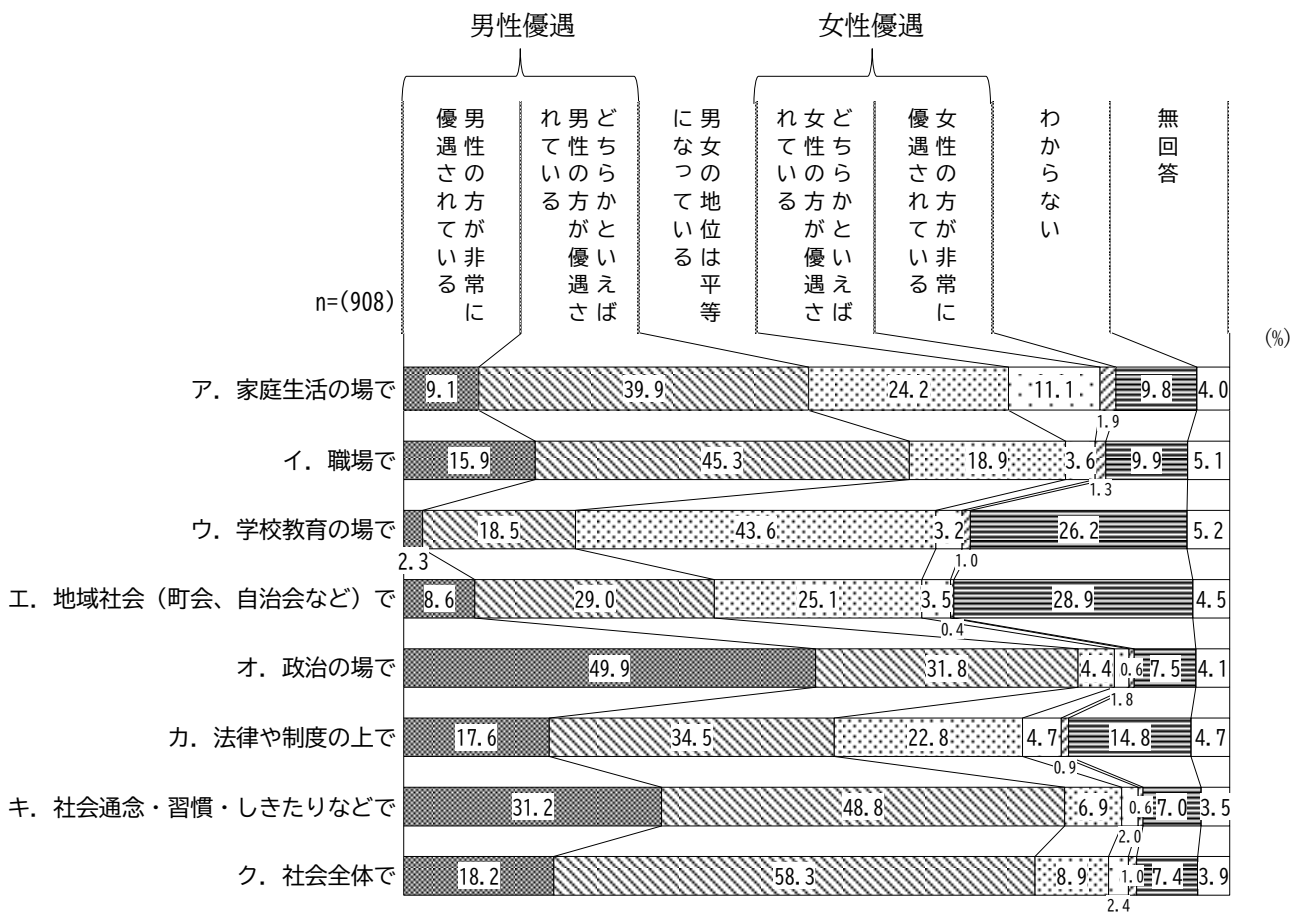
問7 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

男女の地位の平等感は、「男女の地位は平等になっている」という回答が最も多いのは「学校教育の場で」(43.6%)である。次いで、「地域社会(町会、自治会など)で」(25.1%)、「家庭生活の場で」(24.2%)、「法律や制度の上で」(22.8%)となっている。

<男性優遇※>の割合は、「政治の場で」(81.7%)、「社会通念・習慣・しきたりなどで」(80.0%)、「社会全体で」(76.5%)、「職場で」(61.2%)、「法律や制度の上で」(52.1%)で半数以上である。

※「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

図表 男女の地位の平等感(全体)



図表1

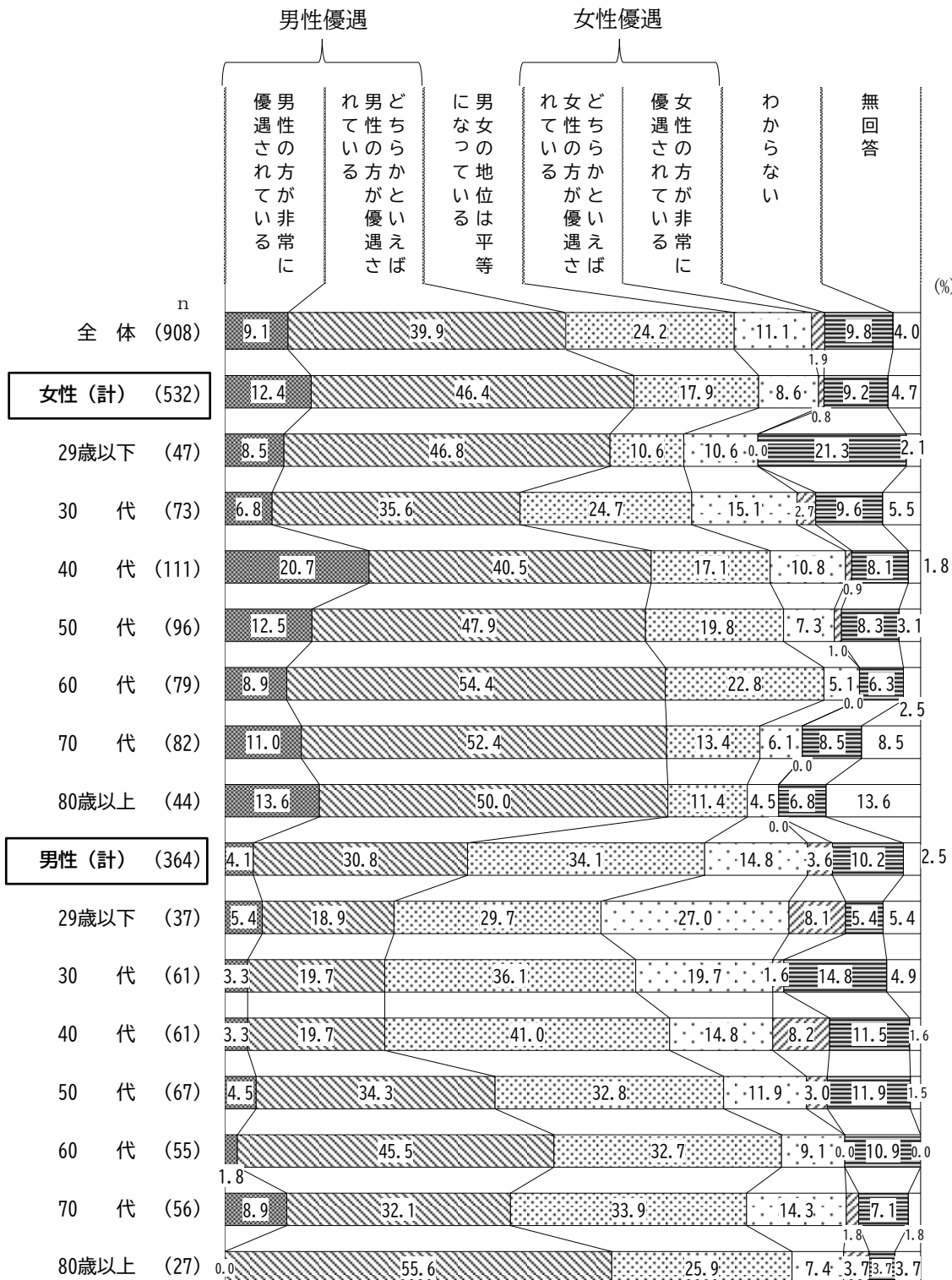
ア 家庭生活の場で

性別で見ると、「男女の地位は平等になっている」と回答したのは、男性（34.1%）が女性（17.9%）を16.2ポイント上回っている。

性・年代別では、「男女の地位は平等になっている」は男性40代（41.0%）で最も多い。＜男性優遇＞の割合は、女性の40代から80歳以上で6割以上と多い。＜女性優遇※＞の割合は、男性29歳以下で35.1%と多くなっている。

※「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

図表 男女の地位の平等感「ア 家庭生活の場で」(全体、性別、性・年代別)



図表2

(2) 男女平等に関する考え方

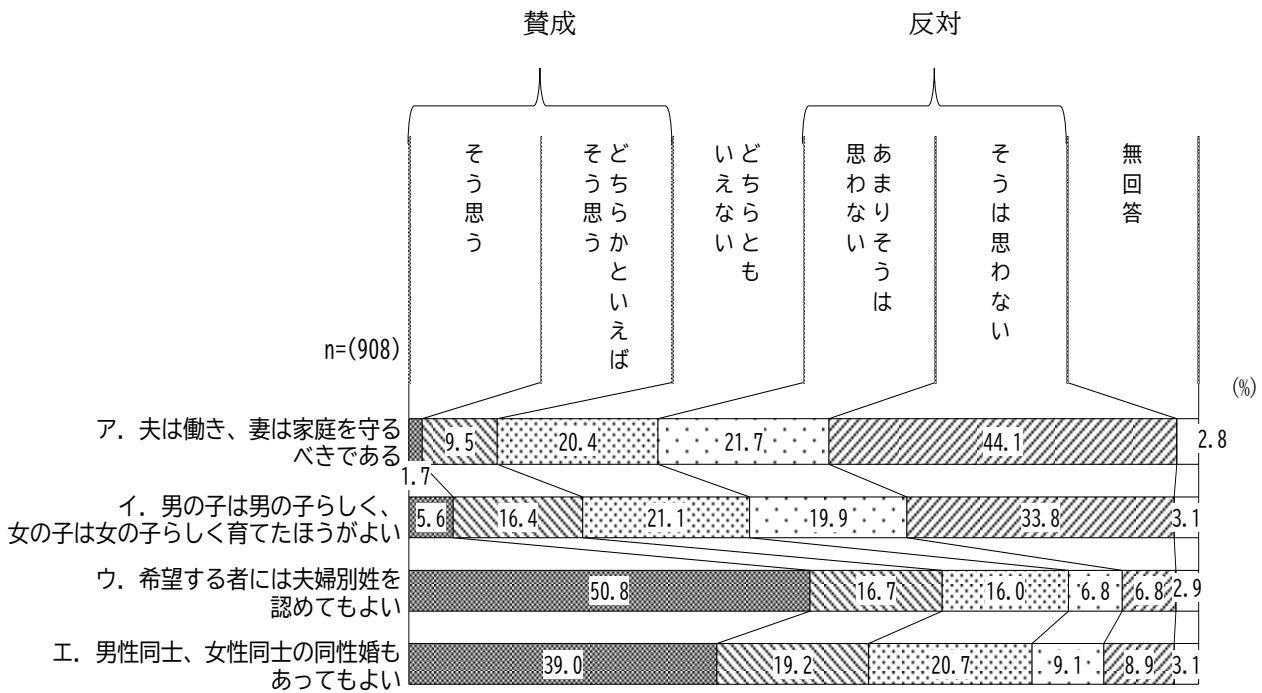
問8 あなたは、次にあげるような考え方について、どのように思いますか。
(○はそれぞれ1つつ)

男女平等に関する考え方は、全体では＜反対意見※1＞が多いのは、「夫は働き、妻は家庭を守るべきである」(65.8%)と「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい」(53.7%)となっている。一方、＜賛成意見※2＞が多いのは、「希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」(67.5%)と「男性同士、女性同士の同性婚もあってもよい」(58.2%)となっている。

※1 「あまりそうは思わない」と「そうは思わない」の合計

※2 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

図表 男女平等に関する考え方(全体)

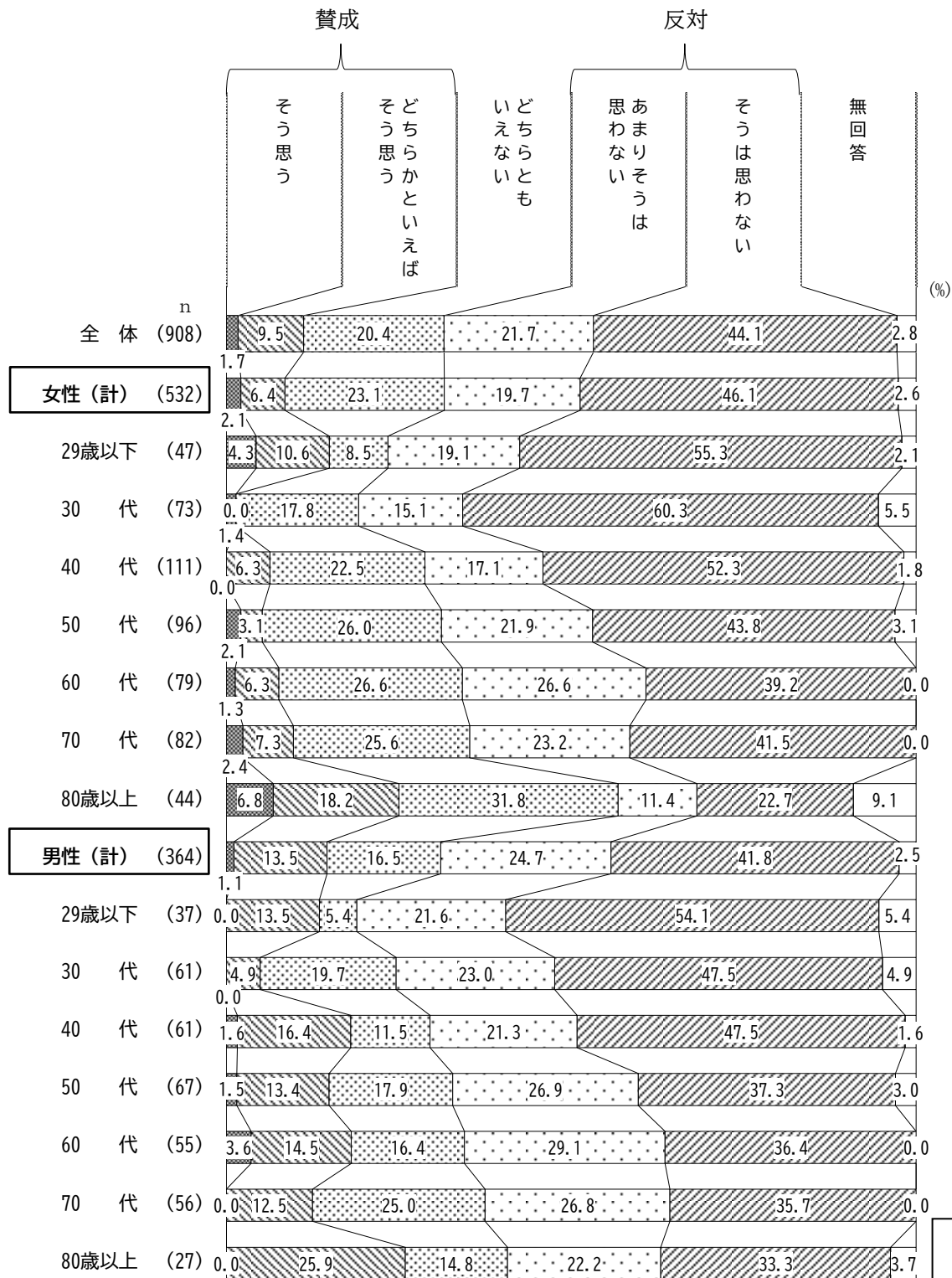


図表3

ア 夫は働き、妻は家庭を守るべきである

性別で見ると、男女ともに＜反対意見＞（女性65.8%、男性66.5%）の割合が多い。
 性・年代別では、＜反対意見＞の割合は、男女ともに29歳以下（女性74.4%、男性75.7%）と30代（女性75.4%、男性70.5%）で7割以上と多い。

図表 男女平等に関する考え方「ア 夫は働き、妻は家庭を守るべきである」(全体、性別、性・年代別)

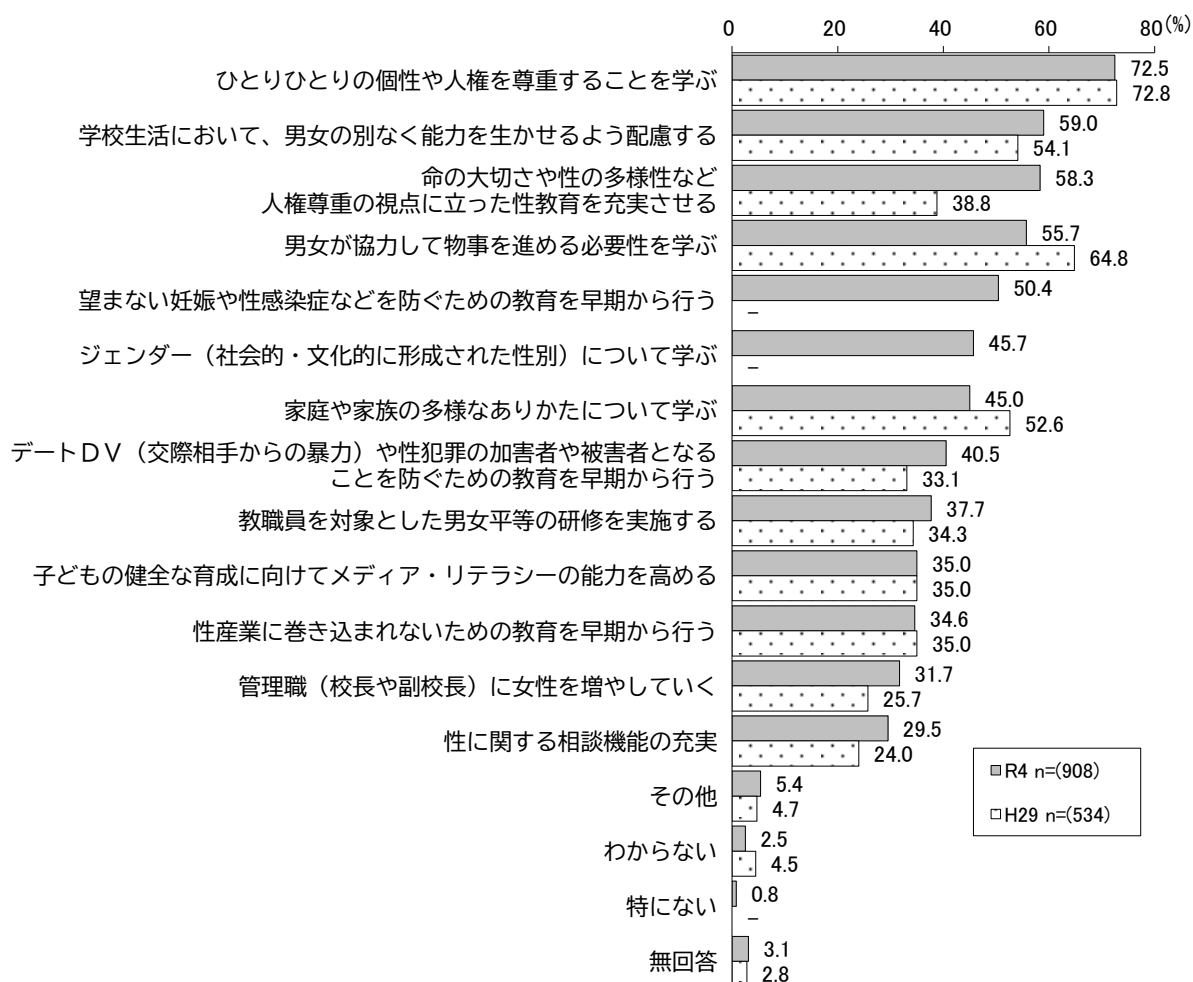


図表4

経年比較

平成29年調査と比較すると、「命の大切さや性の多様性など人権尊重の視点に立った性教育を充実させる」（平成29年38.8%、令和4年58.3%）は19.5ポイント、「デートDV（交際相手からの暴力）や性犯罪の加害者や被害者となることを防ぐための教育を早期から行う」（平成29年33.1%、令和4年40.5%）は7.4ポイント増加している。「男女が協力して物事を進める必要性を学ぶ」（平成29年64.8%、令和4年55.7%）は9.1ポイント、「家庭や家族の多様なありかたについて学ぶ」（平成29年52.6%、令和4年45.0%）は7.6ポイント減少している。

図表 男女平等の意識を育てるために学校教育で特に必要な取り組み(経年比較)

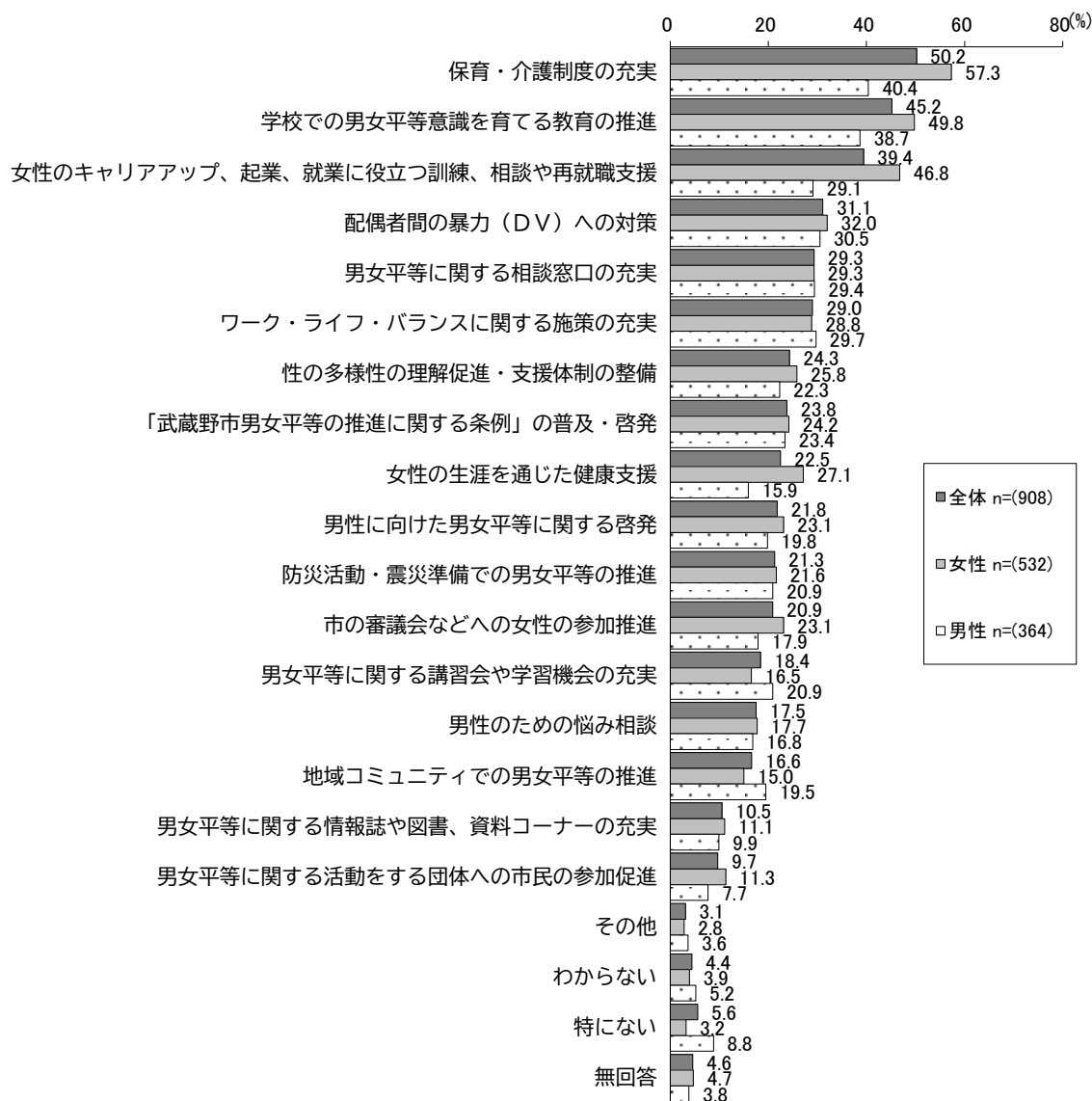


図表5

(2) 男女平等社会を実現するために市の施策に望むこと

問20 あなたは、男女平等社会を実現するための武蔵野市の施策として、どのようなことを望みますか。(〇はいくつでも)

男女平等社会を実現するために市の施策に望むことを性別でみると、男女ともに「保育・介護制度の充実」(女性57.3%、男性40.4%)が最も多く、女性が男性を16.9ポイント上回っている。次いで「学校での男女平等意識を育てる教育の推進」(女性49.8%、男性38.7%)では、女性が男性を11.1ポイント上回り、「女性のキャリアアップ、起業、就業に役立つ訓練、相談や再就職支援」(女性46.8%、男性29.1%)では、女性が男性を17.7ポイント上回っている。



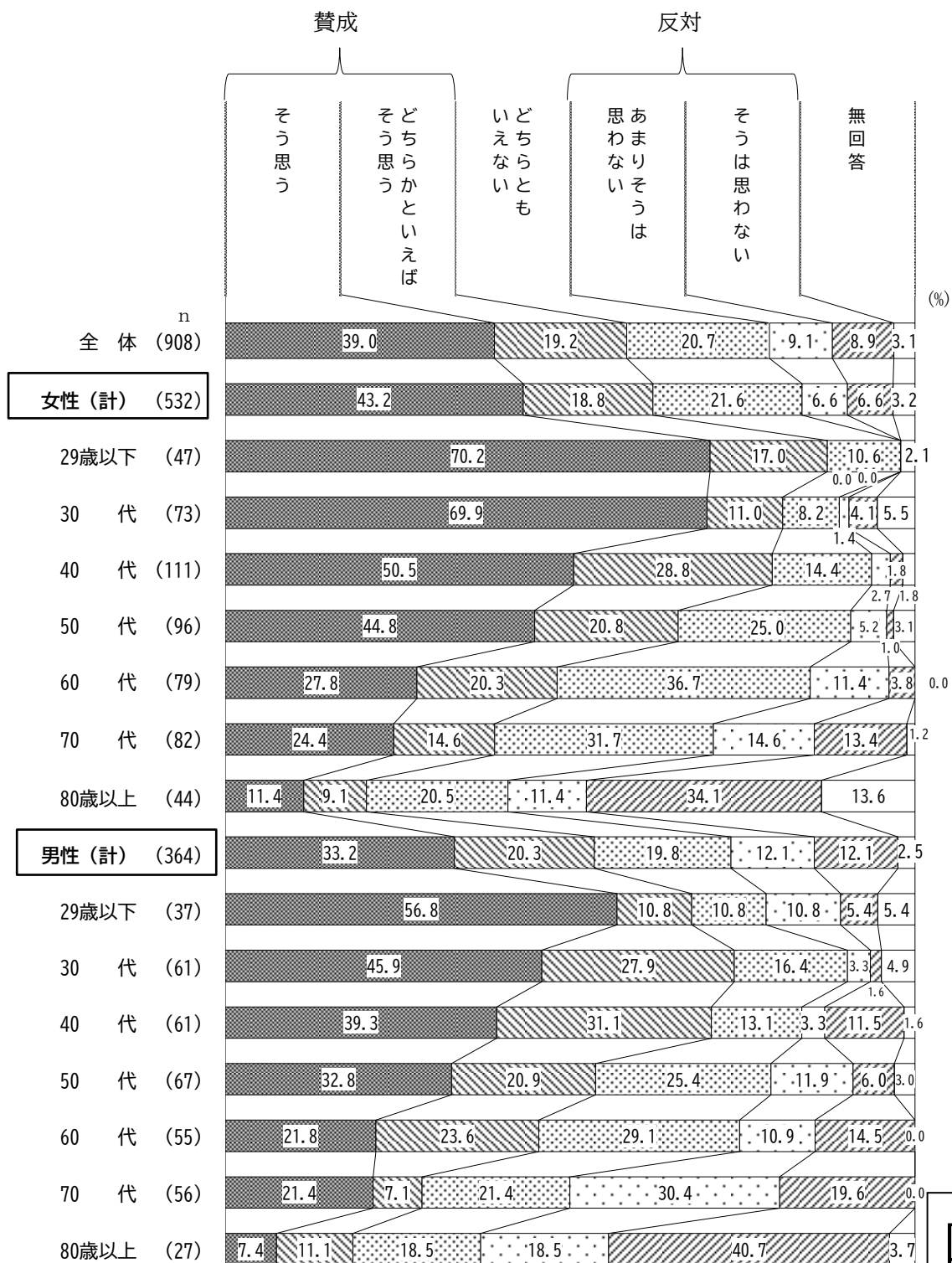
図表6

エ 男性同士、女性同士の同性婚もあってよい

性別で見ると、男女ともに＜賛成意見＞（女性62.0%、男性53.5%）の割合が多い。

性・年代別では、＜賛成意見＞の割合は、女性の29歳以下から40代、男性の30代と40代で7割以上と多い。

図表 男女平等に関する考え方「エ 男性同士、女性同士の同性婚もあってよい」
（全体、性別、性・年代別）

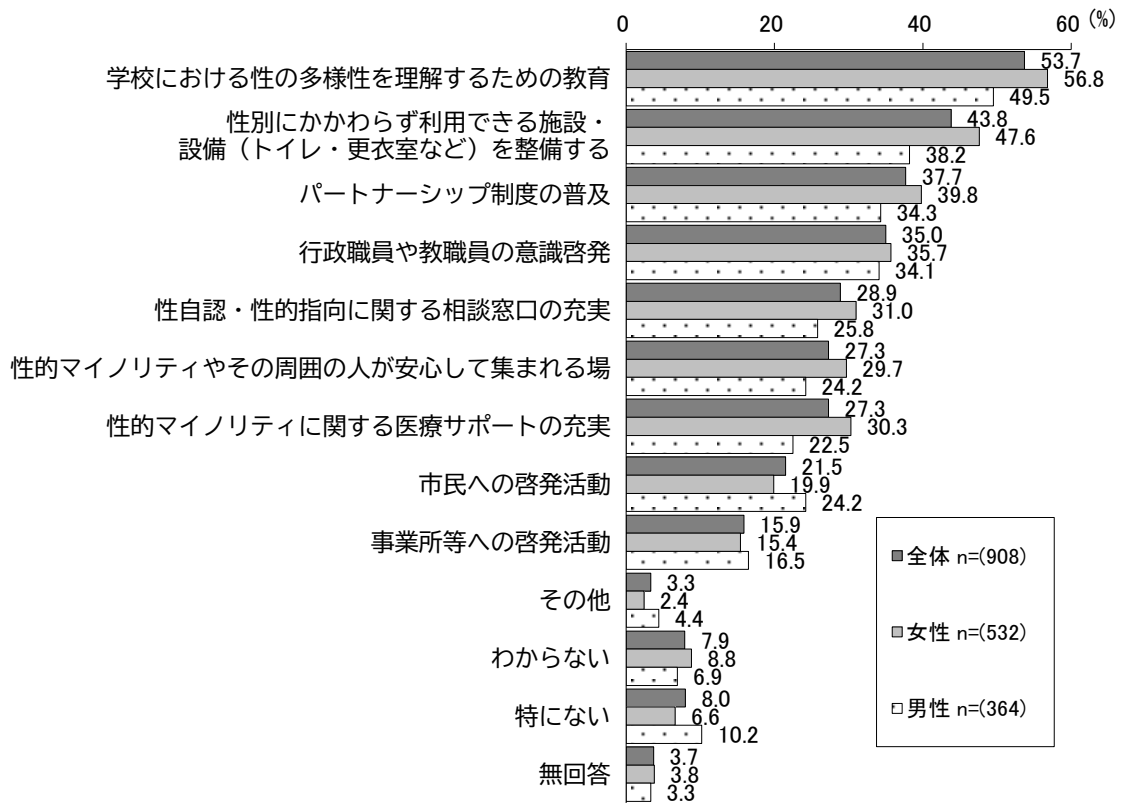


図表7

(2) 性の多様性を認め合う社会をつくるために市に期待する施策

問13 あなたは、性の多様性を認め合う社会をつくるために、市にどのような施策を期待しますか。(〇はいくつでも)

性の多様性を認め合う社会をつくるために市に期待する施策を性別で見ると、男女ともに「学校における性の多様性を理解するための教育」(女性56.8%、男性49.5%)が最も多く、女性が男性を7.3ポイント上回っている。「性別にかかわらず利用できる施設・設備(トイレ・更衣室など)を整備する」(女性47.6%、男性38.2%)では、女性が男性を9.4ポイント上回っている。「市民への啓発活動」(女性19.9%、男性24.2%)では、男性が女性を4.3ポイント上回っている。



図表8

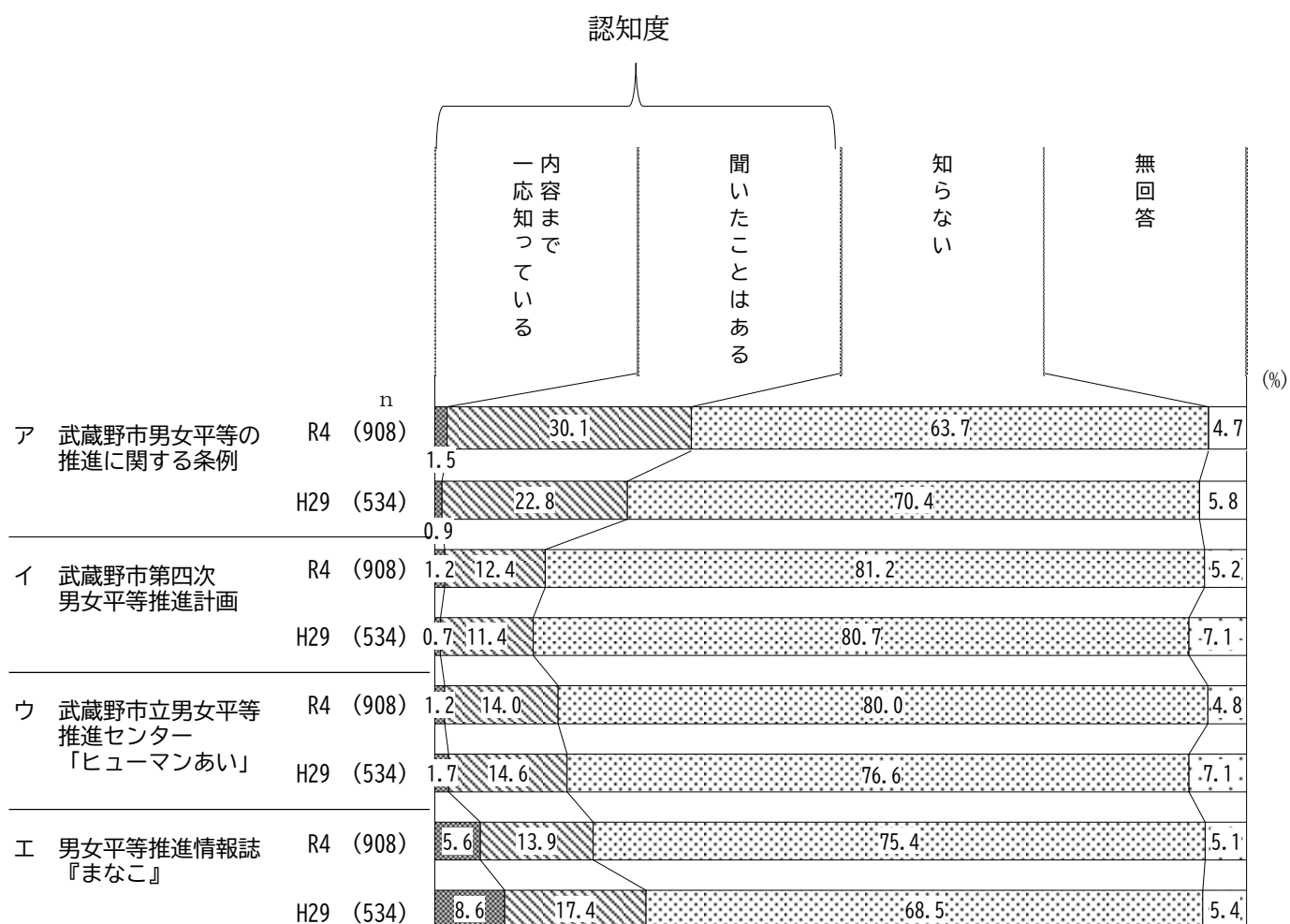
経年比較

平成29年調査と比較すると、「ア 武蔵野市男女平等の推進に関する条例」では、＜認知度＞（平成29年23.7%、令和4年31.6%）は7.9ポイント増加している。「知らない」（平成29年70.4%、令和4年63.7%）は6.7ポイント減少している。

一方、「エ 男女平等推進情報誌『まなこ』」では、＜認知度＞（平成29年26.0%、令和4年19.5%）は6.5ポイント減少している。

「イ 武蔵野市第四次男女平等推進計画」、「ウ 武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」」では、平成29年調査と比較して大きな差は見られない。

図表 知っている言葉や知っている武蔵野市の取り組み(経年比較)



図表9